

蘇れ、幻の観音寺城

観音寺城 | 本谷プロジェクト



全般

定例作業の開始に向けて

👤 jono 📅 2024年1月8日 💬 0 Comments

定例作業の開始に向けて要点の共有のため、参考になりそうな写真を拾い上げてみました。

整備開始直後の伝的場の様子

2020年5月2日。一帯が深い竹藪であり、体が通らないほどの密林状態であった。



伝後藤邸下段石垣を見上げる。2022年5月22日と2023年7月7日との比較

2022年の初旬に下段石垣手前の竹や雑木の伐採が完了したが、その後の竹の再生などにより、状態は一進一退の状態が続いている。



伝後藤邸下段石垣上の竹の倒れ込みと再生

冬場は雪の重みで竹が倒れ込む。この対策のため、4月に石垣上の竹を全伐するも、すぐに竹が再生。

2023年2月3日と2023年7月7日の写真。



下段石垣の上の再生竹を伐採。2023年7月7日



伝後藤邸中段石垣を中央通路から望む。2023年2月3日と2023年8月3日





本谷道筋の様子

左2枚：大手見付手前の冬と夏（2023年1月1日と2023年7月7日）。右2枚は伝後藤邸の西側通路と中央通路入り口（2023年8月3日）



お花井戸郭直下の郭から、上り通路右脇の石垣群と、石垣で造築されたスロープを望む。2023年2月3日



謎の石段道の両脇を守る石垣。2023年1月1日と2023年2月3日。



伝的場/後藤邸/本谷見付/お花井戸郭あたり、2023年1月1日。本谷見付の東側面石垣の写真のみ2023年4月3日に撮影





今後の整備の進め方について

本谷エリアの整備に着手してから4年が経過。主要な遺構が姿を現し、訪問者がその姿を目する事ができるようになった。まだ多くの遺構が埋もれているが、新しいエリアの伐採は控え、現状の維持管理に重点を置きたい。ただし、竹の倒れ込みを避けるための予防的な処置としての伐採は必要。

環境を良好に保つには、6月と9月の草刈り作業が必要であるが、すでに対象区域が広大なものとなり手が回っていないのが現状。これ以上刈り広げても維持管理ができそうにない。このことが当面の課題であるといえる。

PDF版ダウンロード

